

領域名：基礎看護

報告者：宮里智子

教育及び実践の課題

近年、協同学習法などのように、学習者同士で学び合う仕組みを取り入れた学習の方法が注目されており、学習の効果も報告されている。我々も、これまでに、講義や演習に積極的にグループワークを取り入れ、学習者同士の学び合いによる学習を促し、学習の効果を高める取り組みをしてきた。今回、我々の取り組みをより発展させたいと考え、学習者同士の学び合いによる学習に関連する文献を選択した。

活用した論文の概要

人道主義的成人教育哲学と社会構成主義理論に適合する教育戦略としてのピアメンターシップの価値の解釈的検討を行った。その結果、ピアメンターシップの価値は、自己学習の促進、関係の構築、感情的および教育的支援の提供、協働とリーダーシップのスキルの開発において、メンターとメンティーとしての看護学生にとって最大である。さらに、ピアメンターシップは、学生の成功を促進する積極的な学生中心の学習環境を支援することで教員と教育組織に価値を提供することが分かった。そして、価値ある教育戦略としてのピアメンターシップは、あらゆるレベルの看護教育において、将来使えるものとして認識され、そして、他の医療の教育環境のなかでの教育と学習の普遍的に適用されることができるとの結論が得られた。

教育及び実践への活用

ディスカッションをとおして、基礎看護領域や他の領域では、協同学習法のひとつであるジグゾー法やそれに類似する方法で授業を展開していることが分かった。これらの取組は、学習者同士の学び合いを促す取組であるため、本学では、すでに、ピアメンターシップのような学習者同士の学び合いを取り入れた教育が行われていることが確認できた。また、学習者同士で学び合うことで、学びの結果に関するグループ間の差がなくなり、学生個々の学びが深まったという結果が得られたことから、学習者同士の学び合いを取り入れた教育方法の効果についても確認できた。このようなことから、新カリキュラムや国試対策などで、同学年や異学年とのピアメンターシップを取り入れられるとよいという結論に至り、そのためには、組織的に取り組む必要があると考えられた。また、ピアメンターシップには、学生に協同の精神や意義を伝え、ピアメンターシップに参加する準備をさせる必要であるとの意見もだされた。そこで、2020年度から、学生委員会による全学的な取り組みとして、学生同士が生活面や学習面で助け合う学生サポーター制度が開始されたところである。今後はサポーター制度による学生の変化を評価し、学習者同士が学び合う仕組みを構築したい。

参考文献

The Value of Peer Mentorship as an Educational Strategy in Nursing. *Journal of Nursing Education*, 57(4), 217-224. 2018.
